

金沢大学附属病院 神経科精神科

石川県金沢市宝町13-1

摂食障害支援拠点病院に指定。 声無き心のSOSを掬い上げる

金沢大学附属病院は日本海側初、全国では5番目となる摂食障害支援拠点病院に指定されました。110年以上の歴史を有し、世界的な研究も推進する神経科精神科は新たなミッションを果たすことになります。摂食障害支援センター長の内藤暢茂医局長にお話しいただきます。



全国的にも名立たる 精神医学の啓

金沢大学神経精神医学教室は長い歴史を有し、医局では主に4つの役割を担っています。臨床面では、大学病院でしかできない特殊かつ先進的な治療を行っています。修正型電気痙攣療法、統合失調症に対するクロザピン治療などです。教育面では、数多くの初期研修医、後期研修医を受け入れ、専門医認定のための指導にも力を入れています。研究面では、世界的に最先端の研究に臨んでいます。児童の発達障害に多様性が生じるメカニズムを解明する研究では、幼児用脳磁図計を用いた、オンラインワンの成果を上げています。統合失調症の研究に関しては、認知機能低下のメカニズムを解明するべく、ヒト死後脳の解析に取り組んでいます。

四番目の役割は地域医療のマネージメントです。行政と協力し、各地域に医師をどう配分するかを決めています。

精神科医学の 専門性

精神科医学の専門性は、疾患、治療法、ライフステージ場という4つのカテゴリに分けられます。疾患のカテゴリとは、統合失調症やうつ病など各疾患の専門家をさし

ます。治療法のカテゴリは、薬物療法や電気痙攣療法など各治療の専門家。ライフステージのカテゴリは、児童期、周産期、高齢期などに関わる専門家。場のカテゴリは、司法、救急、総合病院などに関する専門家です。

私は、幅広い疾患と年齢層を診ますが、専門は摂食障害、ライフステージは子ども、場については精神科リエゾン専門医です。脳

や心の疾患と身体疾患とを併発した患者に対し、他の診療科とのチーム医療を行っています。では、摂食障害について概説します。摂食障害は、「食べる」行為を自分の意思で制御できなくなる精神疾患です。体重が減少する拒食症と体重が維持される過食症、それぞれにおいて体型にこだわるこだわらなで分けられ、計4分類されます。このなかで体重が異常に減る摂食障害は、重篤になると脱毛、筋力低下、脳の萎縮まで引き起こしてしまいます。

摂食障害に苦しむ人への ケアを強化

摂食障害になる人には、自己評価が低い、こだわりが強い、孤立感がある、などの傾向が認められます。薬物療法では改善せず、カウンセリングが行われます。しかし重症化すると、「体重が少ないから栄養を摂りましょう」という言葉すら頭に入らない状態に陥ります。緊急を要する患者さんは入院させ、精神科医や看護師、栄養士、心理士などがチームでケアに臨みます。摂食障害に対する専門的な治療ができる病院は、全国的にも数が限られているのが現状です。

このたび、金沢大学附属病院は摂食

障害支援拠点病院の指定を受け、10月3日から摂食障害支援センターとしての活動を始めています。治療支援コーディネーターとして心理の専門スタッフを配置し、予防、早期発見、急性期治療、慢性期・回復期支援など総合的な対策を強化します。また、地域の病院や関係機関と連携を組み、患者を速やかに最適な治療へ導けるように取り組んでいます。

精神科医ならではの 覚悟がある

精神科医は、ヒトの心だけを診るわけではありません。精神と身体は一体のものであり、私たちは全身を総合的に診る必要があります。一方、精神科医学の特殊なところは、「正常値」がないことでしょう。内科や外科ならば疾患が完治すれば「正常」であり、血圧や血糖値でいえば、疾患に罹りにくく、長生きできる値が「正常値」です。しかし、精神医学の観点では、長寿が「幸福」であるとは限らない。その人その人の価値観や生活環境に基づいて本人が納得する、いろいろな「正常」があり、「幸福」があるのです。



摂食障害支援センター長
病院臨床教授
金沢大学附属病院 神経科精神科

内藤 暢茂氏

【略歴】

2009年 金沢大学医学部医学科卒業
初期臨床研修後は金沢大学附属病院、石川県立高松病院(現石川県立こころの病院)、小松市民病院などで臨床にあたる
2017年 金沢大学附属病院神経科精神科助教
2022年 金沢大学附属病院神経科精神科講師、摂食障害支援センター長、病院臨床教授

摂食障害支援センターがめざす活動と連携

